

「重要作業ポイント集教育」の再確認(テスト)の実施より

現場の声(疑問)に答えるのが先決では？

大阪仕業検査車両所では、4月11日から「重要作業ポイント集教育」を実施し、教育終了直後の理解度確認において理解不足な社員が散見されたとして、後日、数名の対象者に対して再確認(20問の問題)を実施しました。さらに「合格点(平均点)」があるのかどうか分かりませんが、5月13日現在、再々の確認を指示し実施している現実があります。

会社は「再確認」を実施していますが、分からない点や間違ったところがあれば、お互いに即座に確認をして日常業務に活かしていくことが大切な事ではないでしょうか。

検修課からの回答はありましたか？！

全ての社員の皆さん！！会社から何か周知されましたか？

4月11日から始まった「重要作業ポイント集教育」を受けた現場で働く社員が「重要作業ポイント集教育」を終えた直後に、「重要作業ポイント集」と「新これだけは忘れない」に明記されている同じ作業であるのに「検査確認方法」が異なる問題点があること等を指摘しました。(その他にも何点か社員からの現場作業等の質問もあり、後ほど返答をするということがありました。)しかし、1カ月も経過しているにもかかわらず、社員に返答がなされていません。

「目視で確認？」「触手で確認？」どっちで確認？！

5月に入ってから社員の再度の問い合わせに大阪仕業検査車両所の山崎検修科長は、『舟体取付後の天井管取付ボルトを舟支え下部より、ボルトネジ部先端を「目視で確認するのか？」「触手で確認するのか？」』について等の質問があった点は「検修課からの回答を待っている」と言っていました。

そのような疑問点がある「重要作業ポイント集」と「新これだけは忘れない」が配布されている中で、疑問点をすみやかに解決し社員に周知するのではなく、その問題のある「重要作業ポイント集」を活用して「再確認」を社員に実施する事は本末転倒していると思います。

現場では、その作業が発生した場合、具体的に何を行えば良いのかはっきりさせてほしいのです。(例えば、「ボルトの触手確認」と新たに明記されたのは、ボルト先端が舟支え下部より「突出」している事を確認しなければならないという意味なのか？とか！)

そのような変更点があるならば、そのこと等を社員に周知していくことが管理者の『やるべき仕事』であり「安全な電車」を提供するための技術教育であると考えます。

会社は、現場社員の疑問に早急に答えるべきです。